外交報告筆記

大正十年十二月七日

正

国立公文書館
利用上の注意
枢密院会議筆記及び同委員会録は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館
分類
配架番号
2 A
15-9
枢 D 485

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

樞密院會議筆記

外交報告

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正十年十二月七日(水曜日)午前十一時二十分

開議

攝政宮御臨場不被爲在

出席員

大臣　清浦副議長

内田外務大臣

顧問官　伊東顧問官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

細川顧問官
金子顧問官
南部顧問官
濱尾顧問官
曾我顧問官
穗積顧問官
安廣顧問官
岡部顧問官
黑木顧問官
一木顧問官

久保田顧問官
平山顧問官
石黑顧問官
有松顧問官
珍田顧問官
倉富顧問官
松岡顧問官

委員

井出海軍次官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

書記官長

二上書記官長

書記官

清水書記官

入江書記官

村上書記官

堀江書記官

清浦副議長　之ヨリ開會ス豫テ御通知申上ケ置キタル通リ本日ハ外務大臣ヨリ外交ニ關スル報告アリ御聽取ヲ請フ

内田外務大臣　目下米國華盛頓ニ於テ開會中ノ華盛頓會議ノ經過ニ付大要御報告申上ケタシ本日ハ時間少キニ依リ我國ニ關係アル重大ナル點ノミニ付申述フルコトトセム此ノ重大ナル點ハ今回ノ會議ニ於テ最モ重ヲ置キタル海軍縮小問題日英間ニ懸案中ノ日英同盟問題及山東處分問題ノ三ツナリ之ヨ

リ此ノ三點ニ付大要申上クヘシ

今日迄會議全體ノ空氣ハ我國ニ取リ頗ル良好ニシテ今後幸ニシテ協議成立セハ誠ニ結構ナル結果ヲ生スヘキカ事將來ニ屬スルカ故ニ今ニ於テ之ヲ確言スルコト難キモ日英米ノ全權委員間ニ在リテハ遺憾ナク意見ノ交換ヲ行ヒ十分意思ノ疏通ヲ計リ居レリ先年巴里講和會議ノ際支那委員カ種々ノ宣傳ヲ爲シ米國ノ同情ニ訴ヘ我國ニ對シテ不良ナル結果ヲ生シタルコトアリ今回ノ華盛頓會議ニ於テモ支那ハ我國トノ間ニ種々ノ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニ多少ノ宣傳ヲ爲シ日本反對ノ議論ヲ試ミタルモ一般ノ空氣先年ト異ナリ米國ノ態度ハ我國ニ良好ニシテ全權委員「ヒューズ」氏ノ如キハ善ク我國ノ事情ヲ諒解シテ折衝ノ任ニ當リ支那ノ全權委員カ無用ノ意見ヲ鬪ハスヲ以テ却テ不快ト爲スノ風アリ爲ニ我國ハ支那委員ノ運動ニ由リ格別ノ妨害ヲ受クルコトナキ有樣ナリ

第一ニ日英同盟ノ關係ニ付申述ヘムニ先般

本院ニ於テ報告シタル通リ兩國交渉ノ結果日英同盟ハ今後兩國ノ一方カ廢棄ノ通告ヲ為シタル時ヨリ一年ヲ經テ消滅スヘキモノトシ爾來兩國ノ何レヨリモ廢棄ノ通告ヲ為サスシテ今日ニ迨ヒ此ノ狀態ヲ以テ華盛頓會議ニ臨ミタリ然ルニ日英同盟ヲ存續スヘキカ否カニ付テハ英國ニ於テ兩說アリ前タイムス」社長「ハースクリフ」卿ノ如キハ從來ハ熱心ナル贊成論者ナリシニ最近ノ旅行中米國、濠洲等ニ於テ屢廢棄ノ意見ヲ發表シタリ其ノ理由トシテ本人ノ說明スル所ハ既ニ本同盟ノ有效期間ヲ經過セル今日ニ於テハ米國ノ事情ヲ考慮シテ寧ロ之ヲ廢棄スルコト日米兩國ノ為ニモ却テ有利ナリト言フニ在リ然ルニ英國當局者ハ成ルヘク同盟ヲ存續セシムルコトヲ希望シ若シ之ニ代ハルヘキモノアラハ之ヲ廢棄スルモ可ナルモ何等ノ理由ナク漫然之ヲ廢棄スルハ其ノ好マサル所ナリト為セリ但英國ノ立場トシテハ世界大戰後ノ今日ノ狀態ニ在リテハ當分米國ト

事ヲ構フルノ力ナキカ故ニ如何ナル事情アルモ英米間ニ開戰スルカ如キコトアルヘカラスト為スコト國内一致ノ輿論ニシテ對米關係ハ英國ノ頗ル重キヲ置ク所ナルカ故ニ若シ米國ニ於テ日英同盟ニ反對スルノ見解アルニ於テハ英國ハ之ニ深甚ナル注意ヲ拂ハサルヘカラサル次第ナリ斯ノ如キ一般ノ情勢ノ下ニ華盛頓會議カ開會セラレタルカ米國ノ日英同盟ニ對スル意向ハ略諒解シ得タルヲ以テ過般帝國全權委員ヲ派遣スルニ當リ政府ハ之ニ對シテ日英同盟ノ處分及米國トノ諒解ニ關スル一應ノ訓令ヲ與ヘタリ其ノ訓令ノ要旨ハ會議中適當ノ時機ニ於テ太平洋及極東ニ於ケル恒久平和ノ確立ヲ主眼トスル日英米三國ノ協定ヲ成立セシムル ノ氣運ヲ馴致スルコトニ留意スヘシト言フニ在リ即チ軍備制限ノ協定ト共ニ日英米三國ノ協約ヲ締結シ之ニ關聯シテ日英同盟存續ノ問題ヲ考慮シ該同盟協約ニ多少ノ變更ヲ加ヘテ之ヲ存續セシムルモ可ナルヘク又

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

英國カ日英米ノ協約ヲ以テ該同盟ニ代ヘムコトヲ希望スルナラハ我國ハ之ニ同意スルモ可ナルヘシ帝國全權委員ハ此ノ趣旨ヲ體シテ事ニ當リ先月二十二日始メテ此ノ問題ニ付我カ加藤埴原ノ兩氏英國ノ「バルフォア」氏ト會談ヲ行ヒタリ其ノ際加藤氏ハ同盟存續ノ希望ヲ述ヘ且之ニ付テハ米國ノ意向ヲ考慮セサルヘカラサル處英國ニ於テハ果シテ如何ナル意見ヲ持セラルルカトノ質問ヲ試ミタリ之ニ對スル「バルフォア」氏ノ答辯ノ要旨ハ最近露西亞及獨逸ノ崩壞ニ因リ日英同盟ノ成立ヲ促シタル本來ノ理由ハ差當リ消滅シタリ乍併此ノ同盟ハ兩國ノ為ニ多大ノ利益ヲ供シタル貴重ナル歴史ヲ有スルモノナルカ故ニ漫リニ之ヲ廢棄スヘキニアラス且今日ニ於テ消滅シタル同盟成立ノ理由ハ後來再ヒ發生スルコトナキヲ保セサルナリ之ト同時ニ現今ノ新事態ニ鑑ミテ之ヲ考慮スルトキハ日英同盟ノ存續如何ニ付テハ極メテ愼重ナル注意ヲ拂フノ必要アリ此ノ問題

ハ今回ノ華盛頓會議ニハ直接ニ持出サルル
コトナカルヘキモ間接ニハ種々ノ機會ニ於
テ論議ニ上ルコトアルヘシト言フニ在リテ
更ニ同氏ハ日英米ノ協定ニ關スル自己ノ私
案トシテ一案ヲ呈示シタリ其ノ案左ノ如シ
東亞ノ地域ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ
並太平洋諸島及太平洋沿岸ノ所領ニ對ス
ル締約國ノ現存領土權ヲ保護スルノ目的
ヲ以テ左ノ通リ締約ス
第一締約國ハ各自該權利ヲ尊重シ何レノ
締約國タリトモ該權利カ他國ノ行動ニ
依リ危殆ニ陷リタリト認ムルトキハ之
ヲ防護スヘキ最良ノ方法ニ關シ各締約
國ト充分ニ且隔意ナク協議スヘシ
第二締約國何レトモ其ノ領土權(第一ニ記
述セル)カ將來他ノ一國若クハ數國ノ聯
合ニ依リ脅威セラレタルトキハ締約國
中二國ハ軍事同盟ヲ締結シテ兩國ヲ防
護スルノ自由ヲ有ス但シ(イ)右同盟ハ純
然タル防禦的性質ノモノタルヘク(ロ)又

他ノ締約國ニ對シ之ヲ通告スルコトヲ要ス

第三本協定ハ其ノ適用地域ニ於ケル領土權ノ防護ニ關スル既存條約ノ何レニモ代ハルモノトス

此ノ「バルフォア」案ニ依レハ太平洋諸島及太平洋沿岸ノ所領ニ對スル締約國ノ現存領土權ヲ保護スルコトヲ目的トスト言フカ故ニ右地域ニ於ケル日英米ノ殖民地ハ勿論日米ノ本國ヲモ包含スルモノノ如シ而シテ其ノ第一條ニ於テ此ノ領土權ヲ相互ニ尊重シ該權利カ危殆ニ陷リタルトキハ之ヲ防護スヘキ最良ノ方法ヲ協議スヘキコトヲ定メ其ノ第二條ニ於テ右ノ領土權カ他國ノ為ニ脅威セラレタルトキハ締約國中ノ二國ハ防禦的軍事同盟ヲ締結スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メ暗ニ日英同盟ヲ復活スルノ餘地ヲ存シタリ此ノ案ハ「バルフォア」氏ヨリ米國側ニモ示シタル趣ナルカ我カ全權委員ハ右ノ「バルフォア」案ヲ受領シタル後別ニ一案ヲ立テ幣原男爵ノ私

案トシテ之ヲ「バルフォア」氏ニ示シタリ此ノ幣原案ハ米國上院ノ關係ヲ顧慮シ米國側ニテモ同意シ得ル樣ニ作成シタルモノニシテ尚「バルフォア」案ハ領土權ニ付云々セルニ止マリ緊切ナル利益ニ言及セサルカ故ニ幣原案ニハ之ヲ加ヘ又「バルフォア」案ハ日英米ノ三國間ニハ何等ノ紛議ヲ生セサルコトヲ前提トセルカ如キモ幣原案ハ此ノ點ニ付相當ノ考慮ヲ加ヘタリ幣原案ナルモノ左ノ如シ

第一條　太平洋及極東ノ地域ニ於ケル締約國中一國ノ領土權又ハ緊切利益ニシテ將來締約國以外ノ一國若クハ數國ノ侵略的行為ニ依リ又ハ右地域ニ生スルコトアルヘキ事態ニ依リ脅威セラルル場合ニハ締約國ハ右特定狀態ノ急要ニ應スル為共同ニ又ハ各別ニ執ルヘキ最モ有效ナル措置ニ關シ了解ヲ得ムカ為充分ニ且隔意ナク互ニ意見ヲ交換スヘシ

第二條　前記ノ地域ニ關係アル事項ニ關

シ締約國中何レカ二國間ニ於テ幸ニ現
ニ存在スル圓滿協調ノ關係ニ影響ヲ及
ホス虞アル爭議發生ノ場合ニハ右兩締
約國ハ相互合意ノ上他締約國ノ共同會
商ヲ求メ該事項全部ノ考慮妥結ヲ其ノ
議ニ付スルノ自由ヲ有ス

第三條　本協約ハ今日迄日英間ニ效力ヲ
有シタル同盟協約ニ代ハルヘキモノト
ス

此ノ案ヲ「バルフォア」氏ニ示シタルニ氏ハ一讀
シテ大體誠ニ結構ナリト言ヒツツ直ニ筆ヲ
執リテ二三ノ修正ヲ試ミタルカ其ノ修正ノ
要點ハ第一條ニ於テ緊切利益ノ字句ヲ削除
シ第二條ニ於テ各國互ニ他國ノ權利ヲ尊重
スル旨ノ字句ヲ挿入セムトスルニ在リ此ノ
幣原案ニ「バルフォア」氏ノ修正ヲ加ヘタルモノ
ヲ米國ニ示シ目下之ヲ以テ交渉ノ基礎ト為
シツツアリ米國側ニテハ此ノ案ニ種々考慮
ヲ加ヘタル結果「バルフォア」氏ニ對シ滿足ノ意
ヲ表スル旨ヲ申述ヘタル由内聞セリ唯米國

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

側トシテハ上院等ノ關係上米國本土ヲ包含セシムルコトハ面白カラサルニ付之ヲ太平洋ノ島嶼ニ限リタシトノコトニシテ又支那ハ之ニ包含セシメス支那ニ付テハ別ニ關係國間ニ取極ヲ為スコトトシタシトノコトナリ尚米國側ノ意見トシテハ此ノ協定ニ佛國ヲ加ヘタシ其ノ理由ハ米國々内ニ於テ排英排日ノ思想意外ニ強烈ナルカ故ニ日英米三國ノ協約ハ此ノ反對思想ニ對シテ面白カラス仍テ佛國ヲ加ヘテ之ヲ寛和シタシトノコトナリ此ノ佛國加入ノ件ハ英國ニテハ異存ナキ趣ナルカ今回ノ會議ニハ日英米佛ノ外伊太利、支那、和蘭、白耳義、葡萄牙ノ五箇國カ參加シ居ルニ付此ノ全體ヲ今回ノ協定ニ加入セシムルカ如キコトアラハ其ノ協定ハ殆ト無意義ナルモノト為リ曰英同盟ノ代リトシテ甚タ面白カラサルニ付日本ハ出来得ル限リ之ヲ三國ニ限リタキコトヲ提唱シタルモ米國側ニテ佛國ノ加入ヲ希望スルニハ相當ノ理由アリ我カ全權委員ヨリハ之ニ同意ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルノ外ナシト認ムル旨申越アリ元来日佛間ニハ安南東京等ノ問題ニ付協約アリ佛國モ亦太平洋ニ所領ヲ有シ從来他國トノ間ニ協約ヲ結ヒタルモノアルコトヲ理由トシ今回佛國ヲ加ヘテ四國ノ間ニ協約ヲ締結シ之ヲ以テ日英同盟ニ代フルノ外ナシト思料ス尤モ「バルフォア」ノ修正案ニ付テモ種々考慮スヘキ點アリ殊ニ米國案ニ所謂島嶼ノミニテハ濠洲新西蘭ノ如キモノヲ含マサルノ感アルニ付之ヲ含マシムル趣旨ニ改メタシ又先年締結シタル「ルート」高平協約ニ於テハ太平洋ニ於ケル商業ノ自由平穏ナル發達ヲ助長セシムヘキコトヲ定メタルニ付今回ノ協約ニモ斯ノ如キ趣旨ノ文句ヲ用ヒタシ此ノ點ニ付テハ機會均等門戸開放ノ問題ニ關聯シ英米ニ反對アルヤモ知レス然ルトキハ強テ主張スルノ必要ナキモ出来得ル限リ「ルート」高平協約ノ右ノ文句ヲ襲用シ置ク方他日日本カ太平洋ニ於テ又委任統治地域ニ於テ機會均等主義ヲ主張スル場合好都合ナルヘシト

考フ尚目下華盛頓ニテ概略協議調ヒタル協定案ニハ委任統治地域ヲ包含スルヤ否ヤ分明ナラサルカ故ニ該協定カ右地域ニモ適用セラルルコトヲ明ニシタキ考ナリ而シテ此ノ協約カ如何ナル形式ニテ成立スルカ即チ條約カ宣言カ將タ又文書ノ交換カハ米國ニテハ上院ニ對スル關係上面倒ナル事情アリ日本ニテハ日英同盟ハ協約ニシテ條約ノ形ヲ具ヘス日米協約日佛協約皆同樣ナルカ故ニ此ノ點ハ之ヲ彼地ニ於ケル協議ノ模樣ニ

一任シテ然ルヘシト考フ尚之ニ關聯シテ支那問題ニ付テハ今回ノ會議ニテ既ニ四大綱目ヲ協定シ目下該綱目ニ基キテ協議ヲ進メツツアリ其ノ中支那ニ關スル一協定成立スヘキカ故ニ四國協約ニハ支那ハ參加セシメサルナリ幸ニシテ此ノ四國協約カ成立セハ其ノ精神ニ於テ日英同盟ニ代ハリ得ルモノト考フ

一木顧問官　米國案ニ依レハ其ノ適用範圍ヲ島嶼ニ限ルトノコトナルカ日英同盟ノ最モ

大切ナル關係ハ支那ニ在リ支那ヲ除外シテ
日英同盟ニ代ハリ得ト言フハ異樣ニ非サル
カ
内田外務大臣　御尤ノ御質問ナルカ支那ニ關
シテハ既ニ別約成立シ支那當面ノ問題ハ此
ノ方ニテ始末出來ル筈ナリ元來日英同盟ハ
極東ノ平和ヲ主眼トシ當時露獨ノ脅威ニ對
スル防衛ヲ考慮セルモノニシテ支那ハ屢國
際紛議ノ種因ト為ルモ其レ自身ニハ國際關
係上格別ノ勢力ヲ有スルコトナシ而シテ支

那問題ヲ土臺トシテ紛議ヲ生スルハ今日ノ
處日英米ノ三國ノ間ニ外ナラスト見ルコト
事實ニ近キカ如シ此ノ三國カ極東太平洋ニ
於ケル平和ノ維持ヲ目的トスル協定ヲ為ス
ハ日英同盟カ極東ノ平和ヲ主眼トセルニ異
ナラサルカ故ニ四國協約カ成立セハ兎モ角
モ日英同盟ニ代ハルモノト言ヒテ可ナリ支
那ハ固ヨリ日英同盟ニ參加セス支那ハ其ノ
目的ニシテ自ラ當事國タルモノニ非ス日英
同盟成立當時ト今日トハ事情大ニ異ナリ當

時ハ米國ヲ眼中ニ置カサリシモ今日ハ米國ハ太平洋極東ノ平和ヲ維持スルニ最モ大切ナル關係アルカ故ニ之ヲ加ヘテ互ニ平和ノ維持ヲ計ルハ畢竟日英同盟ト同一ノ趣旨ナリ

一木顧問官　今日ハ最早時間切迫セルニ付此ノ以上質問ヲ為ササルヘシ

内田外務大臣　次ニ山東問題ニ付テハ目下華盛頓ニ於テ日支間ニ直接交渉ヲ開カムトスル際ニシテ未タ其ノ詳細ヲ報告スルノ時期ニ達セス我國ニ於テハ此ノ問題ヲ重要視シ其ノ二國間限リノ問題ナルノ故ヲ以テ之ヲ華盛頓會議ニテ審査決定セラルルコトハ我國ノ到底承認シ難キ所ナル旨ヲ英米ニ通告シ置キタルモ支那ハ之ヲ會議ニ提出セムトスルノ氣配アリ而シテ極東ノ平和ヲ確保スル為ニハ此ノ問題ヲ解決スルノ必要アルカ故ニ英米ニ於テモ深ク憂慮スル所アリ今日ノ處支那カ正式ニ此ノ問題ヲ會議ニ提出スルモ英米ハ之ヲ承諾セサル形勢ナリ尤モ此

ノ點ハ極秘ナルカ故ニ御他聞ナキコトヲ請フ英米ハ日支間ニ出来得ル限リ速ニ之ヲ解決スヘキコトヲ我カ委員ニ勸告シ當方ハ之ニ應諾シテ支那委員トノ間ニ直接交渉ヲ開クコトニ異議ナキ旨ヲ述ヘ支那側ニ於テモ亦之ニ異議ナク結局英米ノ斡旋ノ下ニ日支間ニ直接交渉ヲ開クコトト為レリ其ノ模様ハ他日改メテ御報告申上クヘシ

最後ニ海軍問題ニ付申述ヘムニ此ノ問題ハ今回ノ會議開催ノ大主眼ナルカ我國ノ立場トシテハ軍備縮小問題ヲ先ニスルカ極東問題ヲ先ニスルカハ大ニ利害ノ關スル所アリ若シ軍備縮小問題カ後ト為ラハ先ツ山東問題ノ如キモノヲ解決セサレハ軍備縮小問題ニ移ラストト言フコトト為リ會議遲延ノ全責任カ我國ニ歸スルノ結果ヲ生スヘキコトヲ氣遣ヒシニ米國ニテハ其ノ立場トシテ軍備縮小ニ重キヲ置キタルノミナラス日本ノ立場ニ同情ヲ表シ之ヲ考慮ニ加ヘタルモノト見エ第一着ニ軍備縮小問題ヲ提出シタルコ

ト我國ノ為ニ甚タ好キ形勢ヲ現出スルノ原由ト為レリ而シテ之ニ關スル米國案ハ各國ノ豫想外ニ出テ非常ナル縮小案ニシテ米國自身ハ既ニ三億五千萬弗ヲ費シテ目下建造中ノ軍艦數隻ヲ廢艦トスルノ態度ヲ取リ之ヲ提唱シタリ之ニ對シテハ英國ヲ始メ各國共ニ一驚ヲ喫シタル狀態ナルカ英國ニテハ之ニ對シテ贊成ノ意ヲ表シ我カ全權委員モ亦大勢ヲ看取シテ結局出來得ル限リノ削減ヲ行ヒ米國案ノ趣旨ニ贊同スヘキモ國防上ノ見地ヨリ見テ多少ノ修正ヲ必要トスル旨ヲ言明シタリ斯クノ如ク大體ニ於テ原案ニ贊意ヲ表シタルコト一般ニ好感ヲ與ヘタル由ナリ然ルニ米國案ヲ專門的ニ研究スレハ其ノ提案ニ係ル比率ハ英十、米十、日五ノ割當ト為ル目下ノ處ニテハ日本ハ二十九萬噸、英國ハ約六十萬噸、米國ハ約五十萬噸ナルモ十年後ニ至リ代艦ヲ建造スル際ノ標準トシテハ日本ハ三十萬噸、英米ハ各五十萬噸ト算定セルモノナリ此ノ點カ今日迄論議ノ焦點ト

爲リ居ル所ニシテ我カ海軍專門家ノ研究ニ
依レハ英米ノ十ニ對シテ日本ヲ七トセハ國
防上之ヲ承認スルモ可ナリトノコトニテ目
下我カ全權委員ハ英米ノ七割見當ヲ主張シ
居ル次第ナリ而シテ當方ノ計算ニテハ米國
提案ノ趣旨ニ依ルモ日本ノ割當ハ六ニ非ス
七又ハ七以上ト為ルヘキコトヲ主張セルニ
對シ米國側ニテハ其ノ反對ニ日本ノ割當ハ
六以下ト為ル計算ナリト主張セリ此等意
見ノ相違ヲ纏ムル為專門委員會ヲ設ケテ之

ヲ審議セシメタルモ遂ニ意見ノ一致ヲ見ル
ニ至ラス其ノ旨ヲ專門委員會ヨリ全權委員
ニ報告シタルニ依リ此ノ問題ハ專門家ノ手
ヲ離レ全權委員ニ於テ大局上如何ニ之ヲ協
定スヘキカヲ交渉スヘキコト目下ノ形勢ナ
リ斯クノ如キ大問題ハ必スシモ專門的見地
ヨリノミ觀察スヘキニアラス我カ全權委員
ハ出來得ル限リ其ノ主張ヲ維持スヘシト雖
米國ハ七億圓ヲ投シタル軍艦ヲ廢棄セムト
スル意氣込ナルカ故ニ容易ニ日本ノ主張ニ

同意セサルヘク結局如何ニ落着スヘキカ憂慮ニ堪ヘサル次第ナリ尚四國協定ノ成立ハ此ノ問題ニ至大ノ關係アリ又米國ハ今日迄ニ莫大ノ資金ヲ投シテ比律賓「グアム」等ニ防備ヲ施シタルカ今後更ニ之ヲ增加スルコトアラハ我カ海軍ハ七割ニテモ足ラサルヘク其ノ反對ニ右ノ防備ヲ撤廢スルカ又ハ現狀維持ニ止ムルナラハ七割ヲ多少變更スルモ可ナルヘシ而シテ今回ノ商議不調ノ曉米國ハ從來ニ倍シテ製艦ニ全力ヲ傾注スヘキコト疑ヲ容レス此ノ場合日本ノ財政狀態ヲ考慮スルトキハ七割ノ比例ハ或ハ五割以下ニ下ルコトナキヲ保セス彼此綜合シテ結局ノ決定ヲ下スノ外ナク我全權委員ニ於テモ同樣ノ意見ニテ目下折衝中ノコトト考フ

曾我顧問官　十一ニ對スル七ノ基準ノ算定ノ大要ヲ聞キタシ之ハ現狀ノコトカ又ハ何年内カニ就役スヘキモノヲ加ヘタルコトカ其ノ邊ノ説明ヲ請フ

井出海軍次官　軍事當局ノ軍事上ノ見地ヨリ

見レハ大體ニ於テ彼我ノ兵力ハ均等ナラサルヘカラス併シ地理的關係及財政上ノ關係ニ考ヘ又想定敵國カ東洋方面ニ送リ得ヘキ兵力ヲ考ヘ更ニ多年兵術上ノ研究ヲ為シタル結果ニ照シ我國ノ海軍勢力ハ敵國ト為ルヘキモノニ對シ大體ニ於テ七ノ比例ヲ有スヘキコトヲ發見シタリ目下華盛頓ニ於テ問題ト為レルハ十年後ニ於ケル英米日ノ勢力比例ヲ十、十、六ト為サムトスルモノニシテ各國現在軍艦中ニ於テ未成艦及老朽艦ヲ廢艦トスルトキハ英ハ約六十萬噸米ハ約五十萬噸日本ハ約三十萬噸ト為ル之ヲ十年後ニ於テ五、五、三ノ割合ト為サムトスル次第ナリ

曾我顧問官　海軍勢力ヲ定ムルニハ噸數ノミニテ可ナルカ砲ノ力等ヲ加ヘスシテ可ナルカ

井出海軍次官　御說ノ如ク海軍勢力ノ比例ヲ定ムルニハ噸數ノミニテハ不完全ニシテ尚其ノ他ニ種々加フヘキモノアリ武裝速力ノ如キ即チ是レナリ而シテ五、五、三ノ比例ハ主

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

戰艦隊ヲ構成スル戰鬪艦及戰鬪巡洋艦ニ付
定メタルモノニシテ其ノ他ノ細目ニ亘リテ
ハ容易ニ眞ノ比例ヲ定ムルコト能ハサルニ
由リ大體ニ付テ此ノ比例ヲ立テタル次第ナ
リ此ノ主戰艦ノ大砲ハ以前ニハ十二吋ノモ
ノヲ用ヒタルモ今日ハ十四吋又ハ十六吋ヲ
用フ十年後ニ至リテハ十六吋又ハ十八吋ノ
モノヲ用フルコトト為ルヘシ

曾我顧問官　十年後ノ五、五、三ノ比例ハ如何ナ
ル基準ニ由リテ定マレルカ

井出海軍次官　米國ノ提案ハ現存勢力ヲ以テ
基準ト為スコト大趣旨ナリ現存勢力ヨリ未
成艦及老朽艦ヲ除外シタル殘餘六十、五十、三
十ト為リ十年後ニハ英米ヲ均等ナラシメム
トスル次第ナリ

曾我顧問官　一朝開戰ノ曉ニハ各國トモ及フ
限リ勢力ヲ增加スルコトニ努力スヘキカ其
ノ際勢力ヲ制限スルコトハ可能ナルカ

井出海軍次官　此度ノ會議中ニハ商船ヲ軍艦
ニ變更スルコトノ制限案出テタリ此ノ制限

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ或ハ行ハルヘキモ其ノ他ノ制限ニ付テハ
何等ノ話合ナシ
曾我顧問官　如何ニシテ其ノ制限出来ルヤ
井出海軍次官　其ノ様ニ各國間ニ協定スルナ
リ
一木顧問官　飛行機ニ付テハ新聞紙ノ報道ニ
依レハ戰鬪用平時用ノ區別困難ナルカ故ニ
一切之ヲ制限セストノコトナルカ近頃本院
ニ於テ遞信省官制改正案ヲ審議シタル際陸
軍大臣ヨリ平時用ト戰鬪用トハ異ナルカ故
ニ平時用ノ分ヲ發達セシムルモ戰鬪用ニハ
適セストノ說明アリシカ果シテ然ラハ此ノ
區別立タサルカ故ニ制限セスト言フコト解
シ難シ如何
井出海軍次官　戰鬪用ノ飛行機ト平時用ノ飛
行機ト異ナルコトハ事實ニシテ戰鬪用ノ飛
行機ハ之ヲ平時交通運輸用ノ飛行機ニ代用
スルコトヲ得スス又御質問ノ兩者區別出来サ
ルカ故ニ制限セストノ點ハ御即答申上クヘ
キ材料ヲ有セサルニ付尚調査ノ上追テ適當

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ機會ニ御答申上クルコトトシタシ

清浦副議長　本日ハ之ニテ閉會ス

（午後零時二十五分閉會）

副議長子爵清浦奎吾

書記官長ニ出席

書記官　村上恭一

堀江季雄

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/